

木津川市教育委員会会議録

平成27年第8回木津川市教育委員会定例会

○日 時：平成27年8月26日（水） 午前10時00分から11時45分まで

○場 所：木津川市役所 5階 全員協議会室

○出席者：森永重治教育長、有賀やよい委員、小松信夫委員、高橋史代委員、佐脇貞憲委員
（事務局）森本教育部長、加藤理事、中川理事、竹本教育次長兼学校教育課長、
市川社会教育課長、石井教育施設整備室長、福井文化財保護室長

傍聴の申請があり、木津川市教育委員会会議規則第12条及び木津川市教育委員会傍聴規則第2条の規定に基づき、許可する。

<傍聴者入室>

1. 開 会 委員
教育長あいさつ

2. 前回会議録の承認
教育長が、第7回定例会議の会議録の承認について提案された。
委員より異議なく承認された。

3. 議事

《議案第42号 平成27年度木津川市一般会計補正予算第2号について》

教育長が、事務局に説明を求めた。

事務局が、議案書に基づき説明を行った。

〔説明〕

平成27年第3回木津川市議会定例会に提出の平成27年度木津川市一般会計補正予算第2号の予算案を編成するにあたり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、教育委員会の意見を聴取するもの。

【質疑応答】

委員からの質疑は次のとおりであった。

委 員：吊り天井撤去工事は、木津南中学校か。

事 務 局：木津南中学校及び山城中学校の武道場である。

委 員：木津南中学校は新しいが吊り天井になっているのか。

- 事務 局：木津南中学校を建築したのは平成22年であるが、その時点では吊り天井は問題とされていなかった。東日本大震災以後に面積が200㎡以上又は高さが6メートル以上の吊り天井について基本は撤去、若しくは補強との文部科学省の方針が出された。
- 委員：山城中学校も新しいのではないか。
- 事務 局：平成18年建築である。
- 委員：小学校には吊り天井はないのか。
- 事務 局：木津川台小学校と加茂小学校の屋内運動場を現在工事中である。
- 委員：耐震化等の工事は、棚倉小学校と恭仁小学校が完了すれば完了か。
- 事務 局：非構造部材について今年度に調査を行っている。非構造部材とは、吊り下げであるスピーカーや棚など構造材ではない物。耐震化については、来年度以降に実施する予定である。

【採決】

教育長が意見を聴取し、全員異議なく承認された。

《議案第43号 棚倉小学校校舎改築工事変更請負契約の締結について》

教育長が、事務局に説明を求めた。

事務局が、資料に基づき報告を行った。

〔説明〕

平成27年第3回木津川市議会定例会に提出予定の変更工事請負契約の締結について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、教育委員会の意見を聴取するもの。

【質疑応答】

委員からの質疑は次のとおりであった。

教 育 長：現在の工事進捗状況を説明願う。

事 務 局：7月末時点で22.2パーセントの進捗率である。

委 員：労務単価と追加工事の内訳を説明願う。

事 務 局：労務単価の増額が約518万円、追加工事による増額が約3,170万円である。

【採決】

教育長が意見を聴取し、全員異議なく承認された。

《議案第44号 平成28年度以降使用中学校教科用図書の採択について》

教育長が、事務局に説明を求めた。
事務局が、資料に基づき説明を行った。

[説明]

平成28年度以降使用する中学校教科用図書について採択を求めるもの。

[補足]

事務局が次のとおり詳細な説明をおこなった。

[説明]

山城地区10市町（連合）教育委員会において、山城教科用図書採択地区協議会が組織されている。この協議会において選定した教科用図書について、採択を提案するものである。

まず、教科用図書採択の流れとしては、民間教科書発行者が作成したものを文部科学大臣が検定を行い教科用図書の資格が与えられる。

この検定済みの教科用図書の採択権限は、公立学校については所管する教育委員会にある。

小学校の教科用図書は、昨年度に採択し、今年度より使用している。今回は、中学校の採択年となり、採択した教科用図書は平成28年度より使用開始となる。使用期間は4年間である。

次に採択の仕組みであるが、本市は、山城共同採択地区にあるので、先程説明した山城教科用図書採択地区協議会において、それぞれの教科種目ごとに学校現場の教職員が調査員となり、教科書展示等で寄せられた意見も参考にしながら教科書の内容について検討を行っている。その結果を地区協議会に諮り、各市町（連合）教育委員会が採択するものである。

採択時期については、使用年度の前年度の8月31日までと定められている。

それでは、平成28年度使用中学校教科用図書の採択基準及び基本観点について説明する。

基準の1点目は、学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。観点として全体の特徴や創意工夫である。

基準の2点目は、内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。観点としては5点あり、1点目は、基礎的・基本的な内容の定着を図るための配慮。2点目は、思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮。3点目は、生徒が自主的に学習に取り組むことができる配慮。4点目は、学習指導要領に示していない内容の取扱い。5点目は、他の教科等との関連である。

基準の3点目は、使用上の便宜が工夫されていること。観点としては表記・表現の工夫である。これらを踏まえて9教科15種目の選定を行っている。

次に、採択地区協議会で選定された各教科の主な選定理由と発行者について説明する。

国語は、東京書籍で選定理由は、学習の基礎となる言葉の力や文法の学習が、受け入れやすい本編の教材を使って導入されていて、巻末の資料編で定着させる仕組みとなっており効果的である。一年生の文字を大きくし学習に取り組みやすいように配慮されている。各ページのレイアウトがよく整理されていて学習のポイントが捉えやすい。説明的文章は、社会文化や自然科学等バランス良く配置している。

書写は、光村図書で選定理由は、点画の種類と筆使いで2色の淡墨図や記号・写真を使い、筆の運びや筆圧について理解しやすくしている。基礎編・学習編・使用編の3部構成で相互に関連しながら学習出来るようにしている。

社会科は4種目有り、地理的分野は帝国書院で、学習課題がはっきりと示され「確認しよう」の課題に取り組むことで基礎的・基本的な内容の定着を確かめる工夫がある。写真や資料、イラスト、図表などが見やすく工夫されている。地理的技能を扱っている数が多く、資料の読み取り方も丁寧である。

地図は帝国書院で、地図の見やすさを追求した地図帳であり、世界や日本の地理的特色を視覚的に捉えやすくなっている。一般図と資料図、統計、索引で構成され特に拡大図等の地図、各資料図が豊富に記載されている。

歴史的分野は東京書籍で、時代を見通す年表が章末（中学校の学習内容）、章の扉（小学校の学習内容）に見開きで配置されている。小学校での既習内容から時代の転換点を捉える工夫がある。巻末に用語解説がまとめて用意されていて、用語理解でのつまづきを無くす配慮がある。京都府に関する題材が豊富である。授業時間ごとに思考力、判断力の育成を促す工夫や授業ごとに自らの力で思考出来る様な工夫がある。環境、防災など今日的な課題について、史実をもとに自らの将来を考える手当がされている。

公民的分野は東京書籍で、分かりやすい文章で記述されており、各小単元に必ず図、グラフ、表、写真等が掲載され、視覚的に理解を促す工夫がされている。重要語句は太字で表記され、さらに巻末の用語解説で確実な定着を図る工夫がある。

数学は大日本図書で、各授業の最初に示す学習のめあてが分かりやすく明示され、生徒が学習する内容を的確に把握しやすく、理解を図ることが出来ると共に、授業者にとっても指導する内容を生徒に明確に示すことが出来る。穴埋め形式を例に取り入れ、生徒が自ら考えられる工夫がある。

理科は啓林館で、写真が豊富であり、資料集としても十分な量がある。別冊の「マイノート」がワークブック的な役割を持ち、授業のみでなく生徒の自学学習など様々な状況に対応できる仕組みとなっている。観察・実験の方法を1つだけで無く複数提示する等、思考力や判断力の育成を図る工夫がなされている。

音楽は、一般と器楽合奏に分かれており共に教育芸術社で、一般は、教材ごとに共通事項をアイコンで示し、単元ごとに学習ポイントを音楽マップで表現している。「ここが分かればGrade up」、「Let's create」等の項目で、習熟と関心に応じて自学出来る工夫がなされ、音楽の約束によるサポートが出来るように工夫されている。

器楽合奏は、目次と見出しの色分け、アルトリコーダーへの移行に配慮した配置となり、アーティキュレーション、テクスチャ、パート等の役割、曲の構成で段階的な手立てを導く構成をとっている。日本の伝統音楽で姿勢と礼儀に触れる等、学校音楽として大切な部分、我が国や郷土の良さを味わう一連の活動等に適切に位置づけられている。

美術は日本文教で、発達段階に応じた多岐にわたる題材を取り上げ、それぞれの学びのね

らいを4つの評価観点を基に表示し、自分で確認したり、評価したり出来る工夫がある。A4判によるワイドな誌面や和紙の特徴を活かして効果的に作品を掲載し、鑑賞を堪能出来るように工夫している。1題材を見開き2ページで構成し、見やすくしている。

保健体育は東京書籍で、「今日の学習」で本時のめあてが確実に表示されている。章末に確認の問題を設定し、基礎・基本の習得を得るための工夫がされている。保健の現代的課題について記載が豊富である。学習指導要領に示されていない内容も豊富で、現代的課題やキャリア教育、防災教育との関連も図っている。

技術・家庭は、技術分野と家庭分野に分かれており、共に開隆堂である。

技術分野は、ガイダンスが様々な角度から示され、3年間の学習を見通して意欲的に学習出来るように目標や考え方、進め方を示している。学習のまとめとして、「学習を振り返ろう」、「生活に生かそう」等の項目があり、学習内容を確認し、自分の生活に生かせるように工夫されている。

家庭分野は、教科書を見て自宅で体験・実践できる参考実習例（調理実習等）が掲載されている。振り返りや章末の学習のまとめで定着を確認できるようになっている。和服、日本の食文化、日本の住まい等を伝統文化としてグローバル化の視点で取り入れている。

英語は東京書籍で、文法事項が反復練習できるように整理されている。单元ごとの学習到達目標を明示している。学習した表現内容を活用し、英語で発表する活動をまとめの場として数多く設定している。高等学校との接続を図るために発展的な学習事項を設定している。

〔補足〕

教育長が次のとおり補足説明を行った。

〔説明〕

山城地区教科用図書採択委員会において、図書選定に係る基本的な視点について説明する。

選定に際しては、山城地域の課題を踏まえることを原則として、まず、子ども達の学力向上の視点に立つこと。山城地域の学力が、京都府の平均を下回っていることを踏まえて、下位層の生徒が取り組める工夫がなされているか。一方で、発展的な学習への手立てがあるか。更には、主体的に学習に取り組むアクティブラーニングへの対応がなされているか。

2つ目には、経済格差や貧困への対応等の課題がある中、生徒の興味関心を高め、どの生徒も家庭学習や自主学習がしやすい工夫がなされているか。

3つ目は、教える側の視点として山城管内の教員構成の若年化が進行しており、授業の質を担保する上で若手教員が授業で使いやすいものであるかといった観点で協議をした結果、報告のあった教科用図書が選定されたものである。

【質疑応答】

委員からの質疑は次のとおりであった。

委員：国語は、自分を表現することにも役立つし、他の教科を学ぶ上でも国語力は非常に大事である。一方では、読み物として自分の知らない社会に触れること

が出来たり、想像力を伸ばしたり出来る夢のある教科である。

選定された図書を見ると、冒頭でどう使えば楽しく学習出来て、今、何を学習しているのかが分かりやすく工夫されていると思うが、他の利点は何か。

事務局：学習の基礎となる言葉の力や文法の学習をする際に、本編の内容を使って導入し、基礎編や資料編で定着させる流れが出来ている。また、文章教材の後に「広がる言葉」を配置して教材と関連させながら、言葉や漢字の知識を広げられるように工夫している。

委員：書写は、これまでの楷書体から、中学校では行書体を習うこととなるが、行書体と楷書体の比較が分かりやすく記載されている。他の特徴的な点は何か。

事務局：中学校で初めて習う行書の理解を進めるための工夫として、行書練習が見開きで出来るなど工夫されており、留意点も書いてあり使いやすい。また、書体とは別の話であるが、資料編の中に「情報を集めて整理する」、「情報を発信する」といったレポートやポスター、新聞等の作成について触れられている。

委員：地理的分野と地図が同じ発行者であるが、関連してメリットがあるのか。

事務局：それぞれに検討した結果である。

委員：地図は、大都市拡大図が非常に詳しく出ており見やすいと感じた。

委員：地理で、使いやすさの面での工夫はどの様なものか。

事務局：構成の部分で、最初に学習内容を見通せる導入資料と学習課題が提示されていて、続いて本文、学習内容を振り返る「確認しよう」、「説明しよう」という展開が、見開きで構成されていて学習の流れが分かりやすいことと、言語学習を重視しながら学習したことを整理して定着させる工夫がなされている。

委員：歴史的分野の選定にあたり、他の教科書より優れていた点は何か。また、山城地域は身近に歴史を感じられる場所であるが、そういった考慮はされているのか。

事務局：総合的に良い面が多かった。具体的には、先に説明させていただいた3つの基準と7つの観点に加えて小・中の接続性が良かった。また、生徒の主体的学習が準備されている点や用語解説等の量が豊富であった。山城地域限定ではないが、京都府に関する記述が21点あり、地元教材の量が豊富にある点等を総合的に評価した。

委員：公民的分野は、中学生なりの日常の生活の中で生徒に考えさせることが大事であると考えるが、そういった面での工夫は何か。

事務局：現代社会、経済の分野に関してのコラム、あるいは解説が最新の資料として扱われている所が数多くあった。また、個人、グループで行う作業等の活動が多岐にわたって掲載されており、グループワーク等を通じて生徒に考えさせる工夫がされている。

委員：授業をする上での工夫は何か。

- 事務 局：見開きの2ページが1時間扱いとなっており、1時間の学習の目安が分かる工夫がされ、振り返りが出来る構成であり、学習内容が確実に定着するように工夫がされている。
- 委員：数学の授業をする上での工夫は何か。また、基礎・基本の定着のための工夫は何か。
- 事務 局：特に基礎的・基本的な単元の導入時の例題で、丁寧な記述がされ、指導もしやすいし生徒の理解と定着を図りやすい。空欄を埋める問題等、スモールステップに配慮がなされており、また、図形や作図等の空間を広く使い苦手生徒も取り組みやすい工夫がされている。
- 基礎・基本の定着の観点では、1時間の授業の学習のめあてが分かりやすく明示され、生徒も教師も意識して取り組むことが出来る。
- 委員：理科については、2つ重要な点があると考え。1つは、自然科学の大系に従ってきちんと教えていく。2つ目は、それと同時にその授業を行う中で、科学的思考や仮説設定能力を養っていくことが必要である。他社の教科書もそれらは満たしているが、この教科書を選定した理由は何か。
- 事務 局：各単元末に基本の語句等を青字入りの文字で記述し、附属の青色透明シートで確認できるワークブック的な役割を持つ他、別冊のマイノートには基礎・基本の「ステップアップ」と発展の「力だめし」の問題があり自主学習にも対応できる点。また、関西中心の写真が豊富であり、資料集としても十分な量がある。生徒の興味関心を高める工夫がなされている。
- 委員：音楽は、教科として学ぶ際に、素材によっては入りにくかったりするが、選定された教科書は、色々な分野の曲が選ばれていたり、それを学ぶ際のポイントも明記されていて分かりやすいと思うが、生徒が音楽を学ぶための工夫は何か。
- 事務 局：歌や合奏に対する姿勢や礼儀に対して掲載されており、普段の授業とリンクする部分で工夫されている。また、それぞれの教材の中に「ここがわかればGrade up」、「My melody」等として基礎的・基本的な内容が分かりやすく記載されている。「気付いたことを発表してみよう・話し合ってみよう」等で書きとめたり、発表するための工夫がなされている。
- 委員：日本の伝統的な音楽についても記載が多いと感じたがどうか。
- 事務 局：謡や民謡を音階で示さずに抑揚を図式化して表している部分でも、日本の伝統を重視している教科書である。また、鑑賞教材でも民謡と郷土芸能を別に扱い、全ての都道府県を扱っている。
- 委員：美術は、絵を描いたりスケッチをしたりが授業の中心になると思うが、この教科書には日本の伝統的な工芸やデザイン、写真がうまく取り入れられており自主学習にも役立つと考える。他に使いやすさで工夫されている点は何か。

- 事務局：3年間で3冊使う形式になっており、3年間を見通して発達段階に応じた「出会い」、「深まり」、「探究」の3つのコンセプトで、学年ごとに発展性を持たせている。使いやすさという面では、学習のポイントが示され、各題材が見開き2ページで構成されており、見やすい工夫がなされている。
- 委員：保健体育は、中学生は心と体が大きく変わる時期で、体の不調も出てきやすい。心と体を自分でコントロールする力を付けるための基本的な知識が保健の教科書の中には盛り込まれていると感じた。体育についても色々なスポーツを観戦するにしても知識があれば面白さが変わってくると考える。この教科書が優れている点は何か。
- 事務局：本時のめあてが明示されている。その日の学習のキーワードがチェック方式になっており、重要語句の解説がある。章末に基礎基本の確認問題がある等の工夫がある。また、学年ごとに保健編、体育編が配置されている。保健の分野の記載が豊富で、現代的な課題も多く触れられている。また、防災についての記載が多い。体育分野の資料には、心のバリアフリー化といういわゆる人権教育に触れた中身も記載されている。
- 委員：技術は、実技が主になってくると思うが、どの様な工夫がなされているのか。
- 事務局：技術は、知識面と技能面において、基礎的・基本的な知識や作業について、材料ごとに要点を押さえた記述になっており分かりやすい。また、週1時間という非常に短い授業時間数を踏まえた内容となっている。
- 委員：もう少し詳しく選定理由を説明願う。
- 事務局：実技の部分では、写真や挿絵を多く使っている。生徒の興味や関心に応じた実習の例が多く提示されており、自主的に取り組みやすい工夫がなされている。また、授業時間数が少ないので、学習のまとめとして「学習を振り返ろう」、「生活に活かそう」等の項目があり、学習内容を確認して自分の生活の中で活かしていく工夫がなされている。
- 委員：家庭分野は、自分が生活する中での基礎的・基本的な部分を学習すると思うが、工夫されている点は何か。また、食育の部分で工夫されている点は何か。
- 事務局：単元の途中での振り返りや章末の領域ごとの学習のまとめでスモールステップを確認できるように工夫されている。また、基礎的・基本的な知識や技能の内、視覚化して分かりやすいものについては、写真で分かりやすく取り上げている。
- 食育に関しては、食物アレルギーや日本独自の食文化について触れていたり、京野菜等の地元への興味関心を高められる内容になっている。
- 日本の食文化については、和食と和服と日本の住まいを併せて伝統文化としてグローバル化の視点で取り扱っている。
- 委員：英語は、カラーで見やすくキャラクターを配して馴染みやすいと感じた。我々

の頃は、辞書を引くことが英語の勉強の大きなウェイトを占めたが、巻末に発音記号等も記載される等、至れり尽くせりの感がある。履修の順番や発展的な学習への工夫はどの様なものか。

事務局：履修順序で特徴的であるのが、受動態の学習が3年生で配列されている。過去分詞の取扱いと2年の扱う分量を考えると3年生への配置が、バランスが良いと考える。また、発展的事項として高等学校との接続を意識した内容があり、習熟の程度等に応じて発展的な学習が可能となっている。

【採決】

教育長が採決を行い、全員一致で可決された。

4. 教育長報告（平成27年7月28日～平成27年8月26日）

(1) 教育長が、事業報告に基づき報告を行った。

中でも次の点について、詳細の説明があった。

- ・ 7月29日に京都府教育長との懇談会があった。
- ・ 8月4日は、中体連近畿大会激励会があった。近畿大会に山城中学校の陸上、泉川中学校の水泳がそれぞれ出場する。
- ・ 8月18日は、サンタモニカに12名の中学生が行き、全員元気に帰国した。
- ・ 8月20日は、同志社大学において同志社プロデュースプロジェクトの中間発表を行った。今年で4年目となるが、市内5中学校の生徒が同志社大学生と連携のもとに街づくりの提案について中間報告を行った。
- ・ 8月21日は、AET1名の着任式を行った。

【質疑応答】

委員からの質疑はなかった。

5. その他

(1) 今後の行事予定について

事務局が、今後の行事予定について説明した。

(2) 平成27年度 幼稚園・小学校運動会、中学校体育大会教育委員等出席者名簿（案）について

事務局が、名簿案に基づき出席予定者について説明を行った。

(3) 最近の主な新聞記事について、委員が説明した。

(6) 次回教育委員会日程について

次回委員会は、平成27年9月30日（水）に開催することとし、開催時間については後日調整することを確認した。

教育長が、会議を閉会した。